紙幣の原料

ミツマタ

学名：*Edheworthia chrysantha* Lindl.　科名：ジンチョウゲ

ミツマタはジンチョウゲ科に分類され、コウゾ、ガンピとともに古くから和紙の原料として利用されてきました。枝が三つに分かれていることからミツマタと名づけられています。

花は3～4月にかけて咲きます。花の外側は白く柔らかい毛で覆われ、内側は黄色です。一つ一つは小さい花ですが、まとまって半球形に花をつけるので、黄色の綿がついているようにも見えます。果実は小豆くらいの大きさで、夏に熟します。

ミツマタの樹皮は繊維が丈夫なため、ミツマタで作られた紙は、通常の紙よりも頑丈にできています。そのため日本紙幣の原料にもなっています。また虫にも食われにくいです。

生薬名は新蒙花（シンモウカ）または蒙花株（モウカジュ）と言い、花や蕾を乾燥させて利用します。解熱、消炎、眼病薬として使用されてきました。

ミツマタは四国を中心に栽培されていますが、野生化したものもあるので関東でも見ることはできます。本当に枝が三つに分かれているのか、自分の目で確かめてみても面白いかもしれません。

生薬名	新蒙花（シンモウカ）、蒙花株（モウカジュ）
薬用部位	花、蕾
薬効	解熱、消炎作用
用途	解熱、消炎の目的として用いる。

城西国際大学薬学部　5年生　田中 絵里子

杏仁豆腐でおなじみ

アンズ

学名：*Prunus armeniaca* L. var. *ansu* Maxim.　バラ科

寒さも少しずつ落ち着き、白やピンク色の花が咲き誇る季節となってきました。杏の花もこの時期に咲き、植物園では園芸品種も見かけることがあります。杏と言えば杏仁豆腐を想像する方も多いのではないでしょうか。中国北部原産で、世界各地で果樹として栽培される落葉小高木です。樹高5m程で、葉が出るよりも先に5弁花を咲かせます。

果実は生でも食べることが出来ますが、酸味が強いため、シロップ漬けやジャムにして食べることが多いです。特に乾燥させた杏はビタミンであるβ-カロテンが豊富で、果実類の中ではドライマンゴーに続いて2番目に多いという結果もあります。β-カロテンは肌を乾燥から守ったり、視力の保持や動脈硬化の予防などに役立つと言われています。また、クエン酸が多く含まれるため疲労回復にも効果があるそうです。

生薬名は「杏仁（キョウニン）」と言い、青酸配糖体という成分を含むため、古くから咳や痰に用いられてきました。漢方では、麻黄湯や麻杏甘石湯などに含有され、民間療法では便秘、むくみに用いられています。

生薬名	杏仁（キョウニン）局方生薬
薬用部位	種子
薬効	鎮咳、去痰、嘔吐作用
用途	鎮咳、去痰薬として 喘息、咳、呼吸困難などに用いる。 麻黄湯（マオウトウ）、麻杏甘石湯（マキョウカンセキトウ）、 桂麻各半湯（ケイマカクハントウ）など

城西国際大学薬学部　5年生　桐谷 真奈美

春先駆けの黄（コウ）一点

マンサク

学名：*Hamamelis japonica* Sieb et Zucc.　科名：マンサク科

冬を終えて、真っ先に黄色い花を枝いっぱいに咲かせるマンサクは、迫力がありますね。まるで春の訪れを告げるかのように3月のはじめから開花します。

マンサクは日本特産の落葉小高木で、樹高は約3～10mです。枝先に葉が顔を出す前に、チアガールのボンボンのような黄色く細い花を咲かせます。他の植物があまり花を咲かせていない頃に先駆けて、開花時期を迎えます。諸説ありますが、名前は「まず咲く」から「マンサク」に変化し、付けられたと言われています。

若枝を水につけて、繊維を柔らかくしたものは「ネソ」と呼ばれます。ネソは雪国で特徴的な民家の合掌造りの屋根の建築に利用されます。ネソを結束用の紐として縛っておくと、乾燥したころにはより硬く、頑丈に屋根を固定できます。ネソによって造られた合掌造りは、現在、世界遺産として登録されています。

民間薬として葉が使用されます。葉を水で煮詰めた汁は下痢止めに利用されてきました。また、煮詰めた汁でうがいをすると口内炎や扁桃炎に効くとされています。

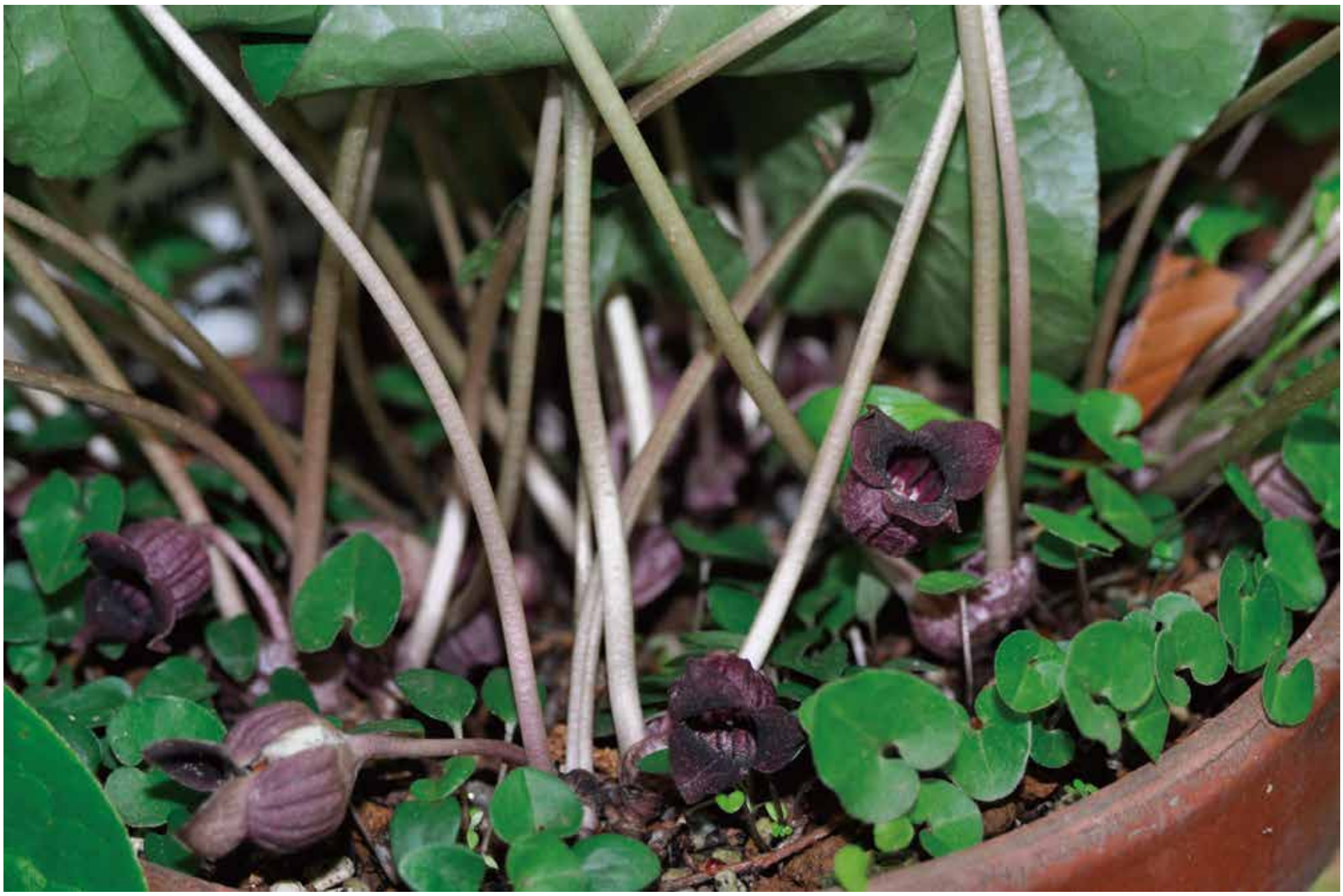
生薬名	満作葉　（マンサクヨウ）
薬用部位	葉
薬効	消炎、止血作用
用途	民間薬として下痢止めや口内炎に用られた。

城西国際大学薬学部　5年生　杉本 奈央

風邪の強い味方

ウスバサイシン

学名：*Asiasarum sieboldii* F. Maekawa　科名：ウマノスズクサ科



二枚つづりのハート型の葉が特徴のウスバサイシンという植物をご存知でしょうか？春の女神と呼ばれる、ヒメギフチョウの餌となる植物として認識されている方が多いかもしれません。

ウスバサイシンは、森林などの樹影に生える多年草です。開花時期は3～5月で、可愛いハート型の葉よりも低い位置に、暗い赤紫色の壺のような形の花を咲かせます。花の見た目は美しいとは言い難いかもしれませんが、大きな葉の下に密かに隠れながら咲いている姿に健気さを感じるかもしれません。茎は地面を這うように成長していきます。

葉が薄く、薬用部位の根は細く、味に少し辛味があることから、薄葉細辛（ウスバサイシン）という名前が付けられました。

日陰で乾燥させた根や根茎はサイシンと呼ばれ、漢方薬に数多く利用されています。見た目はかなり細い根ですが、口に含むと辛味の後、舌を軽く麻痺させるそうです。去痰、鎮咳作用を有し、鼻水と痰が出るかぜなどに処方される漢方薬に配剤されています。

生薬名	細辛（サイシン）局方生薬
薬用部位	根、根茎
薬効	去痰、鎮咳、鎮痛作用
用途	悪寒と感冒に効くとされ、漢方薬に配剤される。 小青竜湯（ショウセイリュウトウ） 麻黄附子細辛湯（マオウブシサイシントウ）

城西国際大学薬学部　5年生　杉本 奈央